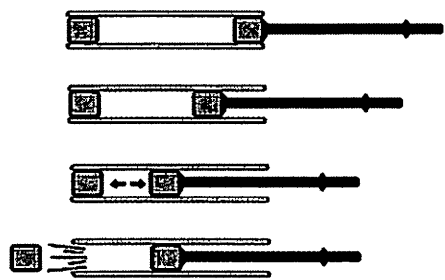


授 業 デ ザ イ ン シ ー ト		授業者:(永井 秀樹)	
学 級 名	4年 1組	男子 15名	女子 12名 計 27名
教 科 名	理 科		
単 元 名	とじこめた空気と水		
本時の目標 (ねらい)	○押し縮められた空気が、もとに戻ろうとする力で玉が飛びくことを理解し、 学習した自然現象を自分の手で再現・生活に生かす力を身につける。		
論理的思考力 をつけるため の手立て	予想(根拠)→実験→検証→まとめ の流れを単元を通して統一し、生活体 験や既習の内容から科学的根拠を導き出す指導を行う。		
授業の流れ(簡潔に箇条書き)			
1. 本時までの課題・結論の確認をする。			
2. 本時の課題を提示する。 空気鉄砲の玉を飛ばそう!			
3. これまでの学習をもとにして、空気鉄砲の玉が飛びく理由をまとめる。 (論理的思考を促す手立てとして、ミニワークシートを使用する。)			
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>空気鉄砲の玉が飛び出すしくみ</p>  <p>① 空気をとじこめる。</p> <p>③ 空気をおしぢめる。</p> <p>④ 空気がおし返す。(力を出す)</p> <p>② 玉が飛び出す。</p> <p>空気鉄砲の玉を飛ばすには</p> <p>③ 空気が()なければならない。</p> <p>② そのために空気を()ねばならない。</p> <p>① だから玉は空気を()ような方がいい。</p> </div>			
4. 用意された様々な材料を玉にしたときの結果を各自で予想する。 (Jamboard を使用)			

5. 予想と理由（根拠）を班で話し合い、共有する。→全体でも共有する。
（Jamboard を使用）

6 班の予想 この玉が飛ぶ

	れい	かほ	きの	かずき	しゅうせい
ジャガイモ	○	○	○	○	○
エンジン	○	○	○	○	○
こんにやく	○	×	×	×	○
新聞紙	○	×	×	×	×
ねん土	○	○	○	×	○

6 班の考え

空気鉄砲の玉を飛ばすには

- ①空気が（押し返さ）なければならない。
- ②そのために空気を（おしちぢめ）ねばならない。
- ③だから玉は空気を（とじこめる）ようなものがいい。

6. 実験し、検証する。

7. 大切なことをまとめ、本時の授業タイトルを各自で決める。

授業者より

本単元より、今年度の OPP の使用を開始しました。その中に採用している「イメージマップ」のキーワード設定、児童が記入した内容に対する効果的なコメント、次時の授業改善への生かし方などに毎回悩んでいます。ご指導いただけたらと思います。

《成果と課題》

- 今回は、論理的思考の一環として予想→実験→検証→まとめの流れを、単元を通して統一することを徹底し、生活体験や既習の内容から科学的根拠を導き出すよう指導した。OPP には、毎時間の課題・結果をまとめるだけでなく、「イメージマップ」を取り入れることで、レディネスや学習後の変容を（児童本人・授業者の両方が）視覚的に確認することができた。また、授業ごとのタイトルを児童自身につけさせることで、授業者が授業改善につながった。
- 個人での思考→小グループでの意見発表→全体での共有に Jamboard を使用することで効果的に思考を深めることができた。一方で、OPP による指導・評価には入念な指導計画、効果的なコメント記入や意図的なキーワード設定が必要であり、明確な目標設定に基づいた授業デザインが重要と考える。児童にも OPP 使用の機会を増やし、学習の手がかりとしての活用の練度を上げていくようにしたい。

11月16日(火) 2校時

授業デザインシート

授業者：(藤川 歩野香)

学級名 5年 2組 男子 16名 女子 14名 計 30名

教科名 家庭科

単元名 食べて元気に

本時の目標 (ねらい) ○食品に含まれている主な栄養素の主な働きにより、食品を3グループに分け、栄養バランスについて理解することができる。

論理的思考力をつけるための手立て 『自分の考えを説明する場面設定』の工夫
提示された給食の献立の栄養バランスの課題について、根拠・理由をつけ献立を変更することができ、変更した理由を自分の言葉で説明する場面を設定する。

授業の流れ(簡潔に箇条書き)

1. 前時までの学習を振り返る。
・主食と汁物は日本の伝統的な食事であること。
・食べ物には栄養素が含まれていて、それを五大栄養に分けることができる。そして、それぞれの栄養素に働きがあること。
上記の2点を確認する。

2. 本時の内容・めあてを確認する。
・学習課題を提示し、めあてを考える。

めあて：栄養バランスの良い食事について、考えよう。

3. 提示された学習課題の問題点を考える。
・chromebookのJamboardを用いて、学習課題を栄養素に全員で分ける。
・問題点を考え、全員で共有する。

4. 学習課題から、自分の考えをもつ。
・chromebookのJamboardを用いて、自分の考えるバランスの良い食事について見立てる。

5. 考えを発表し合い、検討する。
・chromebookのJamboardを用いて、考えを共有する。
・3つのグループの食品を組み合わせ、主食・主菜・副菜ということを確認する。

6. 本時のまとめを行う。

まとめ：栄養バランスの良いとは、主食・主菜・副菜をそろえることが大切である。

7. 学習感想

授業者より

- ・めあてとまとめの言葉やつながり。
- ・机間巡視の仕方や声掛け。
- ・Jamboard を用いた共有の仕方。

上記についてを中心にみていただきながら、さまざま視点でのご指導等よろしく申し上げます。

《成果と課題》

- 本時の導入部分では、五大栄養素と栄養素の主な働きについてスムーズに答える児童が多かった。また、自主学習でも五大栄養素を復習しているなど食育に関して子どもたちの関心が高く、どの授業のときでも一生懸命考えているのを感じることができた。
- 本時のめあてについては、日頃から自分たち主体で考えるように声かけを行っているため、本時のめあてでも、子どもたちが主体的に取り組むことができるよう子どもが考え、授業の見通しをもつことができた。
- ▲本時の展開での自分の考えを発表する部分でもう少し、時間をかけて行うべきであると感じた。班での発表活動にしたり、Jamboard を活用した発表の仕方にしたりと考えを共有するところを軸とできるような授業計画を立てるようにして、子どもたちが根拠をもとに考えることができる授業に今後していきたい。

日時：11月10日（水）5校時（11:50～12:35）

授業デザインシート		授業者：（ 古屋 千明 ）
学級名	5年 4組	男子 15名 女子 15名 計30名
教科名	外国語	
单元名	Unit6 What would you like?	
本時の目標	〇ていねいな表現で注文したり，会計したりしよう。	
論理的思考力をつけるための手立て	前時までに蓄積してきた語彙や表現をもとにやり取りを行うだけでなく，児童と場面設定をし，相手意識を持って取り組むようにする。	
授業の流れ（簡潔に箇条書き）		
1. Greeting		
・気分や日付などについて英語で聞く。		
2. Warming up		
・値段についてのリスニングテストをする。		
・料理の値段や合計を表す数式をもとに，3桁の数を聞き取る。		
3. Today's goal		
・めあての確認をする。		
4. Let's Chant		
・チャンツを流し，表現を確かめながら歌う。		
5. Let's Try		
・自分が食べたいメニューをペアで注文し合う。		
【表現】 What would you like? / I'd like～. How much is it? / It's ~yen.		
6. Let's Watch and Think		
・世界の色々な国で使われている dollar を知る。		
・クリント先生の国で使われているお金について話を聞く。		
7. Review sheet		
・本時の活動をふり返し，ふり返しシートに記入する。		
授業者より		
・児童は既習表現を使いながら，相手に伝わるようにやり取りができているか。（話し方や反応，表情も含めたコミュニケーション）		
・外国のお金について書いてある情報と自分の知っている知識を結びつけ，推測しているか。		

《成果と課題》

〇映像資料を用意・使用することで児童の興味関心を引き，「外国のお金」について理解の一助となった。
（硬貨や紙幣，お金の単位のちがいなど）

〇やり取りの際に，「早く終わったペアは時間いっぱい何回できるか取り組んでみましょう。」と声かけをしたことで，それぞれの児童のレベルに合わせて活動に取り組むことができた。

●黒板を見ながらコミュニケーションを取っている児童がいたが，あくまでも会話モデルなので，子供達が適切な語句や表現を考えてできるよう，指導の段階をあげていきたい。

11月2日(火) 4校時

授 業 デ ザ イ ン シ ー ト		授業者:(牛奥 達也)
学 級 名	5 年 3 組	男子15名 女子14名 計29名
教 科 名	社会	
単 元 名	日本の工業生産の今と未来	
本時の目標 (ねらい)	○身近な工業製品の生産の現状から, 学習問題を作り, 学習の見通しをもつ。	
論理的思考力 をつけるため の手立て	論理的思考力を高めるために, 資料や自分が整理したことの「読み取り」「解釈」「説明」の活動を取り入れる。	
授業の流れ(簡潔に箇条書き) ※児童の活動 1 家庭で調べてきた工業製品について, Jamboard で整理する。 ・グループごとに付箋を使って, 調べた内容について整理する。 2 整理したことをもとに, 産地の分布や製品の種類について考える。 ・気づいたことをノートに書く。 ・工業の種類を知る。 3 国内の工業生産額の変化を読み取り, 特徴について考える。 ・帯グラフを読み取り, ノートに気づいたことを書く。 4 さらに調べてみたいことを考え, 共有する。 ・調べたいことを共有する中で, 学習問題を考えていく。 5 学習問題について, 予想を立てる。		
授業者より ・グラフの読み取りから学習問題を立てることができたか。 ・Jamboard の使用は有効だったか。		

《成果と課題》

○身近な話題を取り上げることで, 児童の学習への意欲を高めることができた。

○Jamboard での共有したものから, 共通点を見い出して考えることができた。

▲共通点から学習問題をつくることに結びつけることができず, それぞれの活動が単発に終わってしまった。

▲統計資料から読み取りをする際に, 児童にもう少し具体的な視点を与えられると良かった。